

製品名: カゼインキナーゼ Iδ ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07946**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	47kDa

抗原情報

遺伝子名	CSNK1D
別名	CSNK1D; HCKID; Casein kinase I isoform delta; CKI-delta; CKId; Tau-protein kinase CSNK1D
遺伝子 ID	1453.0
SwissProt ID	P48730
免疫原	抗血清はヒト CSNK1D 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 291-340

背景

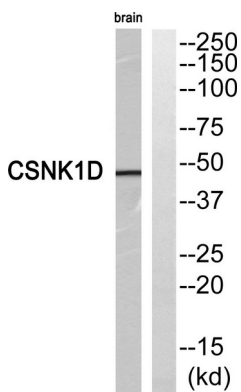
この遺伝子はカゼインキナーゼ I (CKI) 遺伝子ファミリーのメンバーであり、このファミリーのメンバーは DNA 複製と修復を含む細胞質および核プロセスの制御に関与していることが示唆されています。コードされているタンパク質は、アポトーシス、概日リズム

ム、微小管ダイナミクス、染色体分配、および p53 を介した成長への影響の調節にも関与している可能性があります。コードされているタンパク質は、マウスおよびラットの CK1 デルタホモログと非常に類似しています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする3つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2014年2月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。疾患: CSNK1D の欠陥は、家族性睡眠相前進症候群 (FASPS) [MIM:604348]の原因です。FASPS は、非常に早い睡眠の開始と終了を特徴とします。人は朝型人間で、睡眠、体温、メラトニンのリズムが4時間早まります。酵素調節: 基質依存性へパリン活性化を示します。機能: カゼインキナーゼは、カゼインなどの酸性タンパク質を基質として優先的に利用することで機能的に定義されます。多数のタンパク質をリン酸化できます。Wnt シグナル伝達に関与します。概日時計の中心的な構成要素です。PER1 および PER2 をリン酸化することにより、概日リズムの負の調節因子として機能する可能性があります。PER1 は細胞質内に保持されます。PTM: セリンおよびスレオニン残基が自己リン酸化されます。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CK1 Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。カゼインキナーゼ I サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。サブユニット: モノマー。概日リズムのコア発振器の構成要素であり、CRY タンパク質、CLOCK、NPAS2、BMAL1 または BMAL2、CSNK1D および / または CSNK1E、TIMELESS、および PER タンパク質が含まれます。PER1 および PER2 と直接相互作用し、それらの分解につながる可能性があります。組織特異性: 脳、心臓、肺、肝臓、膵臓、腎臓、胎盤、骨格筋など、検査したすべての組織で発現しています。血液中では、造血細胞および成熟顆粒球で高発現しています。また、単球およびリンパ球にも見られます。、

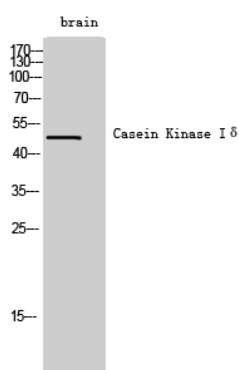
研究分野

ヘッジホッグ;ギャップ結合;概日リズム;

画像データ



CSNK1D 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンは CSNK1D ペプチドでブロッキングされている。



カゼインキナーゼ Iδ ポリクローナル抗体を用いた脳細胞のウェスタンブロット解析

